

学校教育目標

チャレンジ！夢に向かって～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

① 評価領域 「か」 確かな学力<知>

| | | | | |
|--|-----------------------|---|--|---|
| ② | 重点目標 | か かんがえる子どもの育成<前向きに生きる> (自ら考え、判断し、責任をもって行動する子ども)の育成 | | P |
| ③ | 現 状 | 全国学力・学習状況調査の調査問題の結果から、自分の考えを文章で表す力(書く力)に課題が見られるとともに、無解答率が高かった。 | | |
| ④ | 具体的な目標 | I 「勉強が好きだ」と回答した子どもの割合(肯定率)を80%以上にする。 II 「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した子どもの割合(肯定率)を85%以上にする。 III 「ふだんの授業では、学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う」と回答した子どもの割合(肯定率)を85%以上にする。 | | |
| ⑤ | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・「授業で生き生き!」「授業で勝負!」子ども一人一人の活力につながる三つの「わ」(ワクワク感・話・分かった)のある秋田の探究型授業の充実 ・1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ・ふるさと探究学習(総合的な学習の時間)の充実 | | |
| ⑥ | 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題「主体的に考え、共に学ぶ児童の育成」の下、自分の思いや考えを伝え、深め合う授業を目指し、授業実践を積み重ねてきた。 ・授業や家庭学習において、日常的に1人1台端末を活用しながら情報活用能力の育成に努めた。 ・外部から講師を招くなど、各種研修を通して複式学級の指導方法について全校体制で研究に取り組んだ。 | | D |
| ⑦ | 達成状況 | 12月に実施したアンケート調査の結果によると、④のIでは肯定率が89%、IIでは93%、IIIでは93%であった。 | | |
| ⑧ | 自己評価 | (評価) B | (根拠) <ul style="list-style-type: none"> ・⑦から全ての項目で目標値を超えることができた。 ・アンケート結果から、勉強は大切だと感じている児童や授業に意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かった。 ・県学習状況調査の調査問題の結果から、県平均正答率を下回る教科が多く、基礎学力の定着に課題が見られる。 | C |
| ↑評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされてるが、目標は達成できていない ↓ C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない | | | | |
| ⑨ | 学校関係者評価と意見 | (評価) A | <ul style="list-style-type: none"> ・複式学級はこれから増えていくと思うので、先進校となって研究を進めてほしい。 ・「勉強が好きだ」の割合が増えていることはすばらしい。 | C |
| ⑩ | 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・三つの「わ」(ワクワク感、話、分かった)のある秋田の探究型授業を充実させるために、各教科等の見方・考え方を働かせた問いを設定するとともに、個別最適な学びと協働的な学びを効果的に往還させ、子ども自身が学びの成果を自覚できるようにする。 | | A |

学校教育目標

チャレンジ！夢に向かって～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

① 評価領域 「が」 健康・体力<体>

| | | | | |
|--|-----------------------|---|--|---|
| ② | 重点目標 | がんばり抜く子どもの育成<たくましく生きる> (生命を大切にし、生命を輝かせて日々努力する子ども)の育成 | | P |
| ③ | 現 状 | 新体力テストの結果から、運動習慣・運動能力に二極化の傾向が見られる。基本的な生活習慣の確立、学校や地域でのあいさつに課題がある。 | | |
| ④ | 具体的な目標 | I「苦手な運動にもあきらめず、最後まで全力で取り組んでいる」と回答した子どもの割合(肯定率)を80%以上にする。 II「学校・家庭・地域で『あいさつ、返事、後始末』ができています」と回答した子どもの割合(肯定率)を100%にする。 III「交通ルールを守り、自分の命を大切に日々生活している」と回答した子どもの割合(肯定率)を100%にする。 | | |
| ⑤ | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の体力・運動能力の向上に向けた学校体育の充実 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立 命を守る防災・安全教育の充実 学校保健、学校給食及び食育の充実 | | |
| ⑥ | 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイムを活用した持久走・なわとび運動、さらには運動会や校内マラソン大会の実施など、意図的な体力向上策を講じ、運動の楽しさを感じながら体力向上に努めた。 街頭指導での安全指導とともに、あいさつ運動に日常的に取り組んだ。 警察と連携した交通安全教室、行政と連携した避難訓練の実施、プールでの着衣泳の実施等を通して、自分の命は自分で守る体験を行った。 | | |
| ⑦ | 達成状況 | 12月に実施したアンケート調査の結果によると、④のIでは肯定率が93%、IIでは89%、IIIでは100%であった。 | | |
| ⑧ | 自己評価 | (評価) B | (根拠) <ul style="list-style-type: none"> ⑦からI、IIIの項目で目標値を超えることができた。 校内外での安全指導により、大きな事故ゼロを達成できた。 児童アンケートや保護者アンケート結果から、あいさつに課題が見られるという意見があった。 | C |
| ↑評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされてるが、目標は達成できていない ↓ C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない | | | | |
| ⑨ | 学校関係者評価と意見 | (評価) A | <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」のよさや必要性を分かっているにもかかわらずなかなかできない子どもへの指導が難しい。 家庭や地域と連携した「あいさつ」運動をしてほしい。 | C |
| ⑩ | 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域が連携し、「あいさつ、返事、後始末」や正しい言葉遣いの定着に向けた指導を継続する。 安全な登下校の仕方についての指導を継続する。 運動習慣の定着を目指し、体育の授業での継続的な取組や外遊びの奨励、さらにはチャレンジタイムを充実させる。 | | A |

《令和6年度「あきた型学校評価システム」による学校関係者評価シート》

大仙市立太田北小学校

学校教育目標

チャレンジ！夢に向かって～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

① 評価領域 「や」 豊かな心<徳>

| | | | | |
|--|-----------------------|---|--|---|
| ② | 重点目標 | やさしさあふれる子どもの育成<共に生きる> (思いやりの気持ちを持ち、他者と協働して行動する子ども)の育成 | | P |
| ③ | 現 状 | 落ち着いた学校生活を送っており、素直な子どもが多い。自分に自信をもてず消極的な姿勢の子どもも見られる。活字離れが進んでいる。 | | |
| ④ | 具体的な目標 | I 「自分にはよいところがある」と回答した子どもの割合(肯定率)を90%以上にする。 II 「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した子どもの割合(肯定率)を90%以上にする。 III 「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」と回答した子どもの割合(肯定率)を90%以上にする。 | | |
| ⑤ | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の豊かな心を育む道徳科を要とした道徳教育の充実 特別活動を要とした地域に根ざしたキャリア教育の充実 学校図書館の機能を活用した読書活動の推進 | | |
| ⑥ | 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> 道徳科を研究の重点教科として位置付け、全教職員で道徳科を要とした道徳教育の充実に取り組んだ。 子どもの発達段階に応じた様々な体験活動や校外学習、さらには勤労の尊さや社会に奉仕する心の育成につなげる地域と連携した花壇づくりや福祉体験に取り組んだ。 朝読書への取組とともに、公立図書館や書店、読み聞かせボランティア等と連携しながら読書環境の充実に取り組んだ。 | | |
| ⑦ | 達成状況 | 12月に実施したアンケート調査の結果によると、④のIでは肯定率が68%、IIでは89%、IIIでは93%であった。 | | |
| ⑧ | 自己評価 | (評価) B | (根拠) <ul style="list-style-type: none"> ⑦から自己肯定感に関する項目で目標値を下回った。 道徳の授業が楽しいと思うと回答した児童が96%であり、考え議論する道徳の授業づくりを進めることができた。 児童アンケートや保護者アンケート結果から、読書活動の充実に向けた取組について高い評価を得ることができた。 | C |
| <p>↑評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされてるが、目標は達成できていない ↓ C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p> | | | | |
| ⑨ | 学校関係者評価と意見 | (評価) B | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの長所を認め合い、自己肯定感を高めてほしい。 子どもたちが本と関わる機会が増えていて素晴らしい。 フィールドワークが例年より少なくなっている。 | A |
| ⑩ | 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの頑張りを認め、学級・学校全体で価値付けをしていく。また、学校行事等が終わるたびに振り返りを実施し、できたことを子ども同士で認め合う場を意図的に設定する。 学校図書館の機能を生かし、外部と連携して環境整備を充実させる。 | | |

《令和6年度「あきた型学校評価システム」による学校関係者評価シート》

大仙市立太田北小学校

学校教育目標

チャレンジ！夢に向かって～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

① 評価領域 「く」 心理的安全性の確保<安心・安全>

| | | | | | | | |
|--|--|---|------|------|---|--|---|
| ② | 重点目標 | <p><うきのおいしい学校<「きょう育」でつなげる「三方よし」の学校> 「響育」～子どもよし～ 子どもにとって、学びがいのある学校 「共育」～教職員よし～ 教職員にとって、働きがいのある学校 「協育」～保護者・地域よし～ 保護者・地域にとって、応援しがいのある学校</p> | P | | | | |
| ③ | 現 状 | <p>昨年度の県学習状況調査質問紙では、「学校が楽しい」と回答した割合（肯定率）が、各学年ともに全県平均を下回っている。</p> | | | | | |
| ④ | 具体的な目標 | <p>I 「学校が楽しい」と回答した子どもの割合（肯定率）を90%以上にする。 II 「お子さんは学校が楽しいと言っている」「学校は、お子さんの個性を理解し、学校全体で、そのよさを伸ばす指導をしている」と回答した保護者の割合（肯定率）を90%以上にする。 III 「本校では、学校における働き方改革が進んでいる」と回答した教職員の割合（肯定率）を90%以上にする。 IV 「学校は地域の声を生かし、地域と連携した活動に取り組んでいる」と回答した学校運営協議会委員の割合（肯定率）を90%以上にする。</p> | | | | | |
| ⑤ | 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様性を尊重し、子ども一人一人の自己実現を支える学級経営の充実 ・子どもの理解に基づく発達支持的・課題予防的生徒指導の推進 ・インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実 ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 ・働き方改革の推進とキャリア指標に基づく教員研修の推進 | | | | | |
| ⑥ | 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校だよりの発行や月ごとの地域だよりの発行、ホームページの充実等を通して、情報発信に努め、開かれた学校づくりを行った。 ・PTA改革を通して保護者負担の軽減に取り組んだ。 ・ミシン学習や稲刈り体験で地域の力を取り入れた活動を展開した。 ・太田文化プラザにて全校音楽劇を行い、地域活性化に取り組んだ。 | | D | | | |
| ⑦ | 達成状況 | <p>12月に実施したアンケート調査の結果によると、④のIでは肯定率が79%、IIでは81%と100%、IIIでは90%、IVでは100%であった。</p> | | | | | |
| ⑧ | 自己評価 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・⑦から「学校が楽しい」に関する項目で目標値を下回った。 ・PTAや地域と連携した教育活動に例年以上に取り組み、保護者アンケートや学校運営協議会委員のアンケート結果から、高い評価を得ることができた。 </td> </tr> </table> | (評価) | (根拠) | B | <ul style="list-style-type: none"> ・⑦から「学校が楽しい」に関する項目で目標値を下回った。 ・PTAや地域と連携した教育活動に例年以上に取り組み、保護者アンケートや学校運営協議会委員のアンケート結果から、高い評価を得ることができた。 | C |
| (評価) | (根拠) | | | | | | |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・⑦から「学校が楽しい」に関する項目で目標値を下回った。 ・PTAや地域と連携した教育活動に例年以上に取り組み、保護者アンケートや学校運営協議会委員のアンケート結果から、高い評価を得ることができた。 | | | | | | |
| <p>↑評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p> | | | | | | | |
| ⑨ | 学校関係者評価と意見 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもにとって「学校が楽しい」と感じる学校づくりを今後も続けてほしい。 ・働きがいのある職場づくりが行われている。 </td> </tr> </table> | (評価) | | A | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもにとって「学校が楽しい」と感じる学校づくりを今後も続けてほしい。 ・働きがいのある職場づくりが行われている。 | C |
| (評価) | | | | | | | |
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもにとって「学校が楽しい」と感じる学校づくりを今後も続けてほしい。 ・働きがいのある職場づくりが行われている。 | | | | | | |
| ⑩ | 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの悩みやトラブルなどに迅速かつ組織で対応し、確実に見届けをすることを徹底していきたい。また、子どもや保護者との教育相談の機会を増やし、子どもの内面に対する共感的理解を図る。 ・学校だよりや地域だよりの発行を継続し、積極的に情報発信に努める。 | A | | | | |